



令和 8 年度 はばたき学習（総合的な学習の時間）実践・研究計画

部 員 ○大森 果歩、伊藤 智美、山田 幹、石井 知徳、大山 光子

Ⅰ はばたき学習における
自律した学習者の姿

- 1 自分たちの活動に価値を見だし、思いや願いを強め、主体的に探究に向かう姿
- 2 自他のもつ概念のずれに着目し、自分にとってよりよい概念へと更新する姿
- 3 単元で形成した概念を更新して活用する姿

Ⅱ はばたき学習における
授業デザインの取組

- A 思いや願いを強めて探究に向かえるように、現状把握に関連付いた課題設定や新たな方策の工夫
- B 自分にとってよりよい概念へと更新できるように、自分と他者のもつ概念とのずれの背景を思考ツールを用いて整理・分析する場の設定
- C 単元で形成した概念を活用できるように、形成する概念のつながりを意識した単元構想と単元配列

Ⅲ 1・2 年次研究で生成した仮説

	問題解決に没頭する子どもの姿 (数字は、自律した学習者との関連)	要因・手立て (英字は、授業デザインの取組との関連)
一 年 次	自分の好きなことを満足に行うために、児童同士が互いに呼び掛けたり、やり取りをしたりして関わり合いを求める姿（1、2）	子どもの「こうしたい」という思いを尊重して信じて委ねる教師の心構えや、好きなことを自由にできる環境を設定し、それぞれの活動を行う上で現れてくる課題を解決していく単元を構成したこと（A、B、C）
	活動過程を振り返り、遊びの中にあつた学びの要素を活動に意味付け、変容していく姿（1、2）	自己理解につなげるため、なぜそのゲームを選んだのか、どのような困難が解決しそうなのかを問い掛ける問答を繰り返したこと（A、B）
二 年 次		

Ⅳ 1 年次研究の課題と、改善するための手立て

	課題となった子どもの姿 (数字は、自律した学習者との関連)	改善するための手立て (英字は、授業デザインの取組との関連)
一 年 次	子どもたちの自主性を尊重したことで、ただ楽しむだけで終わってしまい、学びに結び付かない子どもの姿（1、2）	課題意識をもち、実践して確かめ、また新たな課題をもつという過程で、学校内外の人や場所を活用する活動を展開したり、自身の内面や考え方の変容、学びを自覚することができるように振り返りを積み重ねたりする。（A、B）

